

# 報 告 書

開催日時	平成 28 年 8 月 17 日 19:00~20:20	
開催場所	夜明公民館	
出席議員	(4 班) 溝口・坂本(盛)・居川・三苫・高倉	
	班 長	溝口
	司 会 者	高倉
	記 録 者	三苫
参加人数	13 名	
主な要望 ・ 提 言 等	○A氏 1. 子ども医療費助成事業により医療費は何歳まで無料になったのか。 今年度から中学生まで無料になった。	
	○B氏 1. 前回の議会との意見交換時に結婚ができない若者が多いという問題で意見を述べさせてもらったが、早速の取組を有り難く感じる。しかし、子育ての中での乳幼児問題として、小児科医の医療問題や保育園に預けてもちょっとした病気で保護者が迎えに行かなければならない。小児科医は足りているのか。併せて、小児科医の医院数も知りたい。	
	小児科医の正確な数字は手元に資料がないので、後日正確な数をお知らせする。(※市健康保険課に問い合わせた結果、現在、麻生、下飛田、こじかの3 医院が開院している。) 休日・夜間医療での対応は、医師会とのバックアップが必要であり、協力をお願いしていかなければならない。市は医療系大学との派遣要望も県を通じて検討しており、済生会病院に、県の事業で大分大学より救急対応として1名の医師を派遣してもらっている。また、夜間・休日対応として、議会からも市に対して、医師会に具体的対応策の検討をお願いするよう要望している。	
	2. 救急医療機関が乳幼児を受け入れれば良い。その辺りも医師会と協議し、受入れをお願いしたい。 救急医療機関が小児を受け入れるということは、救急医療機関にも小児科医の在勤が必要となり、医師の確保という面から厳しい。医師会等と、夜間・休日の医療体制を確保することの方が現実的ではないかと思う。	
3. 先日の市政懇談会で防災関係を質問したが、他地区の避難場所が遠い。私達市民も加勢が出来るので、防災連絡体制を地域に作る様に要望したい。		

災害時においては、一時避難(場所)、二次避難(場所)等がある。市の指定避難場所が遠かったりすると、地区公民館等近所の安全な場所に避難するということになるが、市の職員対応にも限りがあり、まずは、市の指定避難所の対応が優先される。

6月議会においても、自主避難場所への食料、寝具等に対する防災関係の意見が多く取り上げられた。頂いた意見を市に伝える。

4. 夜明小学校跡地の幼老共生事業について、明円寺会も今回の事件を踏まえ、理事等役員の改選、再発防止に向けた取組等、再出発に向けて努力している。幼老共生事業を早く開始できるようにしてもらいたい。

市は元副園長の告発を表明し、真相究明を行う方向である。学校跡地活用による地域活性化を目的とした幼老共生事業については、元副園長の個人的な責任問題とは別に考えることも必要であり、事業の早期の実現について、議会としても検討すべきであるとの意見も出された。

#### ○C氏

1. 少子高齢化問題。子どもの子育てとして空き家があるが、住んで貰えないのが現状。我々も努力しているが、今回の施策について身近に感じないし、十分ではないと思う。施策の充実を図った方が良いと思う。また、観光面では屋形船を生かすことも大事である。利用や手続きの簡易さをお願いしたい。

屋形船に関しては、いろいろとご意見を頂いている。旅館、船頭等の関係者の意見調整も必要であり、議会としても産業建設委員会を中心に検討を行っているところである。空き家に関しては、移住促進のため市としても力を入れている。頂いた意見は要望として受け止め、今後に生かしたい。

2. 夜明地区の防災無線（告知端末）の全世界帯設置を要望する。

要望として市へ伝える。

#### ○E氏

1. インバウンドに関して、咸宜園の日本遺産登録は、観光客誘致対策の一環と考える。咸宜園を観光地として生かすための取組を聞きたい。日本遺産としての活用を進めていかなければならないと思う。

対策として、QRコード、多言語化、Wi-fiの設置を行っている。また、日田市を宿泊の拠点としたツアー企画も検討している。咸宜園は、日田を代表する文化的な遺産であるので、活用を図っていかなければならない。